

平成27年度 第3回 諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議

開催日時	平成27年8月24日（月） 14：00～16：00
開催場所	諏訪市役所第1委員会室
出席者	<p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員】 柳澤慶子委員、中嶋博美委員、宮坂友子委員、岩波寿亮委員、宮坂勝太委員、今井高志委員、青山正博委員、平尾毅委員、藤沢晃委員、林直樹委員、山崎三千代委員、佐久秀幸委員、金子ゆかり委員</p> <p>【諏訪市まち・ひと・しごと創生本部】 平林隆夫副市長、小島雅則教育長、関基総務部長、河西秀樹企画部長 伊藤幸彦市民部長、飯塚隆志経済部長、竹内桂建設部長、湯沢広充会計管理者、宮下隆水道局長、高見俊樹教育次長、松崎寛議会事務局長、山田早百合高齢者福祉課長（代理出席）</p> <p>【事務局】 木島清彦企画調整課長、前田孝之企画調整係長、河西俊明企画調整係主査、牛山智哉企画調整係主査、小松智恵企画調整係主任</p>
	<p>【次第】</p> <p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 報告事項 (1) 住民意識調査結果（詳細版）について</p> <p>4 協議事項 (1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について</p> <p>5 意見交換</p> <p>6 その他</p> <p>7 閉会</p>
	<p>1 開会 河西企画部長より開会宣言があった。 なお、坂内委員と牛山委員が都合により欠席となった。</p> <p>2 市長挨拶 (金子市長) みなさんこんにちは。第3回目の有識者会議だが、第2回の有識者会議で報告した住民意識調査結果の詳細版、自由意見やクロス集計を追加したものについて、まずご報告申し上げたい。そのうえで、本日の議題である「諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）」についてご意見をいただきたい。総合戦略骨子（案）は、総合戦略の施策展開の要点となり、人口ビジョンにおける人口目標を達成するために必要となる施策の柱を定めるものとなる。総合戦略骨子に基づき、有識者会議でご意見を伺うとともに、具体的な施策や事業を肉付けすることで総合戦略の起草作業を進めていきたいと思っている。 前回に引き続き、委員の皆様からは、様々なお立場からのご意見、ご提言をいただきたいと思っている。どうぞ忌憚のないところをお話いただきますようお願いを申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願ひしたい。 (河西企画部長) 会議の進行については、会議の会長である金子市長にお願いしたい。</p>

(金子会長)

報告事項に先立ち、定足数の確認について事務局より報告をお願いしたい。

(事務局)

委員数 15 名中、本日出席委員が 13 名であり、半数以上の出席となる。定足数に達していることを報告する。

3 報告事項

(金子会長)

それでは、報告事項について説明を求めたい。(1) 住民意識調査結果(詳細版)について事務局より説明をお願いしたい

(事務局)

報告事項(1)について、資料 No.1-1~1-4 に沿って事務局から説明があった。

(金子会長)

報告事項について、ご質問やご意見を伺いたい。

委員から質問、意見なし

(金子会長)

報告事項は以上となる。次に、協議事項について事務局から説明をお願いしたい。

4 協議事項

(事務局)

協議事項(1)について、資料 No.2 に沿って事務局から説明があった。

5 意見交換

(金子会長)

質疑をお受けしたい。意見でも感想でも、提案でも構わないのでお願いしたい。

(A 委員)

総合戦略の副題に『あなたの「可能性」を実現、「輝く SUWA」の創生戦略』とあるが、これは確定ではないということで良いか。「SUWA」の部分にどの市町村を入れても当てはまってしまうのはいかがなものかと思った。施策についてだが、確かに「しごと」がない、「ひと」がない地域に「まち」はない。「しごと」と「ひと」は大事だと思うが、「しごと」をつくる、「ひと」に来てもらうためにどういった「まち」を目指すのか。「まち」の姿が表紙のサブタイトルに現れる総合戦略を策定していただき、それを実現するためにはどういった「しごと」のあり方、働き方が必要なのか、どういった人たちに来てほしいのか、というメッセージが込められ、施策に取り込まれるような形にしていかなければならない。総花的なサブタイトルでは、これで本当に人が来てくれるのだろうかということになってしまう。

(金子会長)

議論の中で、サブタイトルにふさわしい言葉が閃いたらご提案いただきたい。

(B 委員)

素晴らしく良くできていると思う。諏訪市の魅力となると、諏訪市の駅前と松本市の駅前と比較をして、圏域 20 万という都市が若者に対する一番の魅力になるだろうと思っている。

現在、若い人たちが行くところは、近くでは松本、遠くでは新宿、甲府となっている。例えば松本市にならうようなまちづくりがわかりやすいと思うので、圏域 20 万というものがこの戦略の中に入ってくる必要がある。諏訪市だけでなく諏訪市発信による諏訪地域の都市づくりという形を盛り込んでいただけたらどうかと思う。

(金子会長)

20 万圏域を視野に入れてということについて、事務局で心掛けている点があれば、説明を加えてもらいたい。

(事務局)

骨子の中には広域的な視点や項目は設けていないが、今のところは、できるだけ連携という程度の考え方になっている。直接的な取り組みをこの中で謳い込めるかどうかまで内容を詰めているわけではない。皆さんの意見を聞く中で、可能な限り進めていきたい。

(事務局)

茅野市ではビーナスラインを使った観光連携、岡谷市ではシルクというキーワードが出たが、養蚕、生糸の産業が関係する市町村同士が連携して事業に取り組むという話がある。諏訪市もそちらと広域連携しながら地方創生関連の事業ということで進める方向性で動いている。他にも諏訪市からそういったものが発信できれば、同じような形で近隣の市町村の方にもご協力いただき、また、連携しながら進めていく考えは持っている。

(B 委員)

直接、諏訪市が 6 市町村合併というような話で持ち込むのはいかがなものかと思うが、これができ上がって多くの人に見ていただくことになったときに、諏訪市の方針として、6 市町村、20 万の圏域が一つになってまちづくりをしていく思いを諏訪市が持っているということは、どこかで分かるように示していただければ良いと思う。

(C 委員)

「しごと」をメインにしてというところは賛成である。諏訪市の良さは、中小企業で成り立っているところだと思う。「まち」をしっかりと考えないと人が来ないというよりは、各企業の求人による力によって、新入社員がたくさん来ている。移住の理由として、結婚とか、「まち」が良いからという理由ではなく、働くために諏訪市に来ているという理由が圧倒的に多いと思う。働くということに少し意識を向けると、労働人口を上げていかないと稼ぎ出す力がない。人口増ではなくて、労働人口を増やしましょうという観点で考えても面白いまちになると思う。

(金子会長)

諏訪市は労働集約型で発展し、一時は地方交付税の不交付団体になっていたが、企業の海外進出やバブル崩壊、リーマンショック等々でそうではなくなった。ただ、諏訪市の税収の根幹を成しているのは製造業で、製造業に諏訪市を支えていただいている。そうして生きてきたという歴史を持っている「まち」で、少し今、元気がなくなってしまう。まちづくりという点でご意見を伺いたい。

(D 委員)

諏訪市では昔ほど求人は増えていないと思う。そんなに労働集約型の仕事があるわけではなく、優秀な人間が少し欲しいというのが企業の立場ではないか。少し前の話だが、ハローワーク諏訪での有効求人倍率が 1.11 というときに、ハローワーク諏訪の所長と話をした。正社員の募集は 34 パーセント程度であとは全部パートの募集というのが現実だそう。企業としては、優秀な人も欲しいが、人件費を抑えたいというところからパートも欲しい状況である。また、どうやって新卒の優秀な学生を諏訪に連れてくるかということで、企業は悩んでいる。昔のように何百人も採用するという状況は諏訪市にはない。さらに言えば、後継者が

いないなどの理由で廃業が目立ち、企業数が減っている。そういう状況が諏訪市の現実と
思っている。

(E 委員)

企業数は、平成初頭から減少しており、2,000社、3,000社あった製造業者も減っている。
内容の良い会社はM&Aという手法もあるが、内容の悪い会社はM&Aでも売れないし、誰
も継ぎたくないような状況だ。事業承継とかM&Aで対策できるほどは、現実には甘い話では
ないと思う。

個人的には、アンケート結果に、若い人が、諏訪市に帰ってきたい、住みたい、結婚した
いという意向を持っているところに唯一希望があると思う。大学へ行かせるお金が大変だから
子どもの数が少ないということについては、奨学金で諏訪市に帰ってきたら減免するよう
なことができないか。私の高校の同級生は、40人ぐらいのうち5人ぐらいしか地元に戻っ
てきていない。地元での就職先は金融機関か公務員だが、あとの人はほとんど県外にいる。今
になるとみんな「いい田舎に住めて」と言うが、私も若い頃は嫌だったが、子どもを育て
るのに諏訪地域にいた方が良いと思う。諏訪市に住むように施策にインセンティブを付け
れば、人口もだんだん増えるのではないかと思う。

企業の情報発信だが、私も息子がいるので、どこの会社に就職すれば良いかと考えるが、
親である私も、諏訪市にどういう仕事があるんだろうと迷うぐらいなので、一般的な子ども
の親はなかなかこちらの企業を知らなくて、子どもと相談することもできないのではないか。
親に対する企業の情報発信もかなり必要になると思う。

(F 委員)

ものづくり教育をはじめとしたキャリア教育という言葉はたくさん出てくるが、ものづく
りに対して、「ヒト・モノ・カネ」を一生懸命投資して、「まち」に「ひと」が来るかという
と疑問がある。製造業における就業者で、県外や海外に長期間勤務する人がたくさんいる。
中堅企業や小規模な企業でも海外で生産している企業はたくさんある。それがネックで、そ
の会社を途中で辞めざるを得ない人も多い。これはものづくりの宿命で、日本が変動相場制
である限り、円が強くなれば海外へ移転していく。現地生産で、人件費が安いところへ移転
していくのは当たり前のことだ。一方で、私は長野市生まれだが、こんなに風光明媚で景色
の良い地域に住んだことがないと思っている。先日、新聞報道でサービスエリアのランキン
グが出ていたが、東日本で最高のサービスエリアは「海ほたる」で、第2位が「諏訪湖サー
ビスエリア」と書いてあった。確かにすばらしい景観があるが、観光に関してもう少し真剣
に考えた方が良いのではと思っている。観光業の良いところは、サービスが生産されると同
時に消費されるため、雇用が絶対に消えてなくなることにある。今、1泊8,000~10,000
円しか取れないのであれば、それを30,000円にする方法を考えれば良い。現実にはそういうホ
テルが須坂市にあるが、社長が15年がかりで改善をした。今、1泊30,000円ぐらいで日本
中から予約が殺到している。なお、お盆と正月、年末年始は営業しない。なぜかという
と、そこを営業すると地元の優秀な人材が採れないからという理由であった。それぐらいの
目で、観光資源を大事にすることを考えても良いのではないか。

(金子会長)

議論が観光にシフトしてきたが、その前に私自身の思いを伝えたい。日本全体がそうだが、
ものづくりで貿易黒字を出していた時代は終わり、日本の外貨は何で稼いでいるかと言うと
投資である。海外に工場を出し、投資した収益が日本に還元されてきて日本の経済を支えて
いるという方向にシフトしてきている。この諏訪地域は、ものづくりで頑張ってきた地域だ
が、ものづくりの中で価値を見出しているのは技術の集積ということだ。大量生産とか、人
件費によって生産コストの競争力を上げていく面では、絶対的に日本は競争力を失っている。

その代わりに、新しい技術や試作といった「産み出す力」は日本が牽引していかなくてはならないのではないかと期待したいと思っている。この部分について、観光について議論する前にご意見をいただきたい。

(G 委員)

空気がきれいでも、山がきれいでも、お金がないと人間は暮らしていけない。これは紛れもない事実だ。私はもともと茅野市に住んでいて諏訪市に来た。それは諏訪市が良かったから来たわけではなく、仕事があったからきたというのが正直なところだ。諏訪市に戻ってくる人も、仕事があったから戻ってきたという人がほとんどということになると、やはり「しごと」というのが大きなファクターになってくるのは間違いないのではないかと。そういう中で、総合戦略の全体イメージをみていくと、失礼な話かもしれないが、「SUWA」という文字をほかの市に変えても全く同じことができてしまうのではないかと。茅野市には縄文、岡谷市にはシルク、そういう特色あるものが諏訪市には見つからないということもあるが、どこかに特化した方が良くと思う。その中で、「しごと」というものにフォーカスし、そこから来るまちづくり、そこから来る「ひと」づくり、そこから来る結婚、出産というように持っていた方が、この諏訪市としての特色を出していく上で良いのではないかと。

(H 委員)

鉄道には、都市間輸送とローカル輸送がある。ローカル輸送で考えると、上諏訪駅が非常に寂しくなっている。駅が都市との結節点であるということから、駅周辺でいろいろな営みができれば良いと考えている。東京から諏訪市に来られた方によると、諏訪市からの二次交通がないという話もあるので、交通体系も整備して、まず駅前から整備することで地域活性化を図っていただけるとありがたい。

人口を増やすという面では、アンケート結果をみると諏訪地域の人たちは、茅野市から諏訪市、あるいは下諏訪町、岡谷市といったこの地域で動いていて、この諏訪地域が好きだということが分かる。諏訪市の近くに大きな松本市というまちもある。松本市は諏訪市から普通列車で30分程度で着くので、諏訪市に住み、松本市に通勤してもらうような考え方もあると考えている。

(金子会長)

すでに通勤圏域は、6市町村圏域を越えて伊那市や松本市、長野市という時代になっていて、市町村合併のさらに次の地域連携ということで、国は地域連携という言葉を使っていると思っている。そうしたエリアの人たちにとっても、ここに住もうとする人をどう引き付けていくかということもテーマかもしれない。

「しごと」という中では、製造業、観光業以外に子育てに関するものや介護に関するものなど、女性が今まで活躍してきた分野があると思う。女性の視点からはどうか。

(I 委員)

市長から技術開発という言葉が出たが、技術というと手作業での技術や身に着けるものも技術と言えるが、観光などのサービスでは、心のサービス、おもてなしというのも技術だと思う。これらの技術も、女性から見ると諏訪市の魅力につながっていくと思う。

(J 委員)

駅前のお話があったが、今、高島小学校、城北小学校は子どもたちが非常に減ってきている。城南小学校に関しては、そんなに減ってはいないが、駅周辺に住む子どもは本当に減っている。アンケート結果にもあるように、お年寄りも含め子どもたちも駅周辺では生活しにくい。スーパーがなく、子育てしにくい環境があると感じている。市長も塩尻市のえんぱーくに視察に行ったと聞いているが、あのような幅広い年代の人たちが集える場所が駅前に存在して

いれば、地域としても活性化していくのではないか。

(K 委員)

駅前商店街は、本当に小さな商店の集まりで何とか運営している状況である。上諏訪駅前は今から変わろうとしているところだが、まだ、それがどうあるべきなのか、見えてこない部分もある。これから何十年も先を見越して開発を行わないといけないと思っている。市民と市、民間企業が一緒に考えながら開発できれば良いと思う。

工業に関してだが、今までは製造業関係のたくさんの方が仕事に来ていたので、駅前商店街は賑わっていた。たくさんの方が駅前を歩いて仕事に来る。毎日の生活の中に駅前というものが存在しているというところが大きな発展の部分だった。今は時代の流れとともに、良い企業も出てくれば、駄目になる企業も出る。そういう波があると、仕事をする人をそこでたくさん雇えるのだろうかということが心配になる。景気が良いときはたくさんの人を雇う。しかし、世の中でその技術が必要なくなってきた場合、その企業は業績が悪化して、雇用が少なくなる。そういうことが繰り返されてしまうところが心配である。

私は飲食店を営んでいるが、できるだけ多くの雇用を生もうというのが私のやり方で、正社員は採らないが、小さな店でも14人、15人のパートが働いている。週3回、短時間とか、5時間とか、昼間だけだったり、夜だけだったり、それでもたくさんの方がそこにきて、その店を成り立たせている。また、後継者を視野に入れて、店を開きたいと思う若い子たちをバイトで採ったりする。そういう気持ちになってくれる人が出てくれればと思う部分がある。できるだけ多くの方が、学生の頃や若いときにバイトでも良いから地域の中に入って一緒にやっていく時間を設けられないものか。学校の授業でも、技術の部分だけではなく、諏訪市の歴史的な部分や諏訪市を感じられるような授業が、小学校や中学校でもっと入ってこないものかと感じている。そういうところから子供たちの気持ちは成長し、育てられると感じている。

(D 委員)

教育という話が出たので少し申し上げたい。諏訪圏工業メッセに小中学生を連れて行くというのは、諏訪市にこんな産業があって、将来諏訪市に戻ってくればこういう仕事がある、こういう会社があるということを知る素晴らしいチャンスだと思っている。諏訪圏工業メッセをものづくり教育の一環として、諏訪市の教育の中に取り込んでいければ、将来、子どもたちが諏訪市に戻ってくるきっかけになるイベントだと思う。

(金子会長)

「しごと」について製造業や観光の話をしているが、飲食の関係や子育ての保育士、これをサポートするベビーシッター、あるいはカウンセリングの方や医療、介護に従事される方など、いろんな「しごと」があって良いと思う。ただ、「ひと」がいないと「しごと」もバランス良く集まってこない。

観光がもっと輝いて魅力があっても良いのではないかという話だが、先日、諏訪市のホテル・旅館の中で、観光のサービスの質がここは大丈夫というところは2~3軒しかないと感じた。諏訪市は観光でも頑張っているのにショックを受けたが、外部からの目はたいへん厳しい。ただ、伸び代はまだあると捉え、諏訪市の観光は魅力アップできると考えている。

(L 委員)

総合戦略の文章は、素晴らしい出来だと思う。しかし、どこか物足りないのかと考えると、6市町村の中で諏訪市が中心だという意識を持ち続けていることが、総花的な文章として出ていると思う。企業が目標計画を立てるときは必ず数字が出てくる。数字に対してどうアプローチするのか、達成しなければならぬ目標が出てくる。そういうものと違って、誰が責

任を持てばよいのか分からない状況の中では、どこからも非難が出ないような文章となってしまう。ただ、これができればこんな素晴らしいことはないと思っている。

諏訪圏工業メッセの問題もそうだが、下諏訪町と岡谷市でロボコン大会が開催されている。小学校、中学校の子どもたちが、ロボットを作っているいろんな競争をしている。そのようなことを諏訪市でも実施する。諏訪圏工業メッセみたいなところで、子どもたちが、実際にロボットを使って戦いをする。自分たちで創意工夫してロボットを作る。そういう場を諏訪圏工業メッセでも作ってもらいたいと思う。

諏訪市の製造業で技術者が欲しいという話があったが、諏訪圏工業メッセにも大学の工学部が来ている。諏訪市に優秀な理工系の学生を持ってきたいと思っても、みんな大手が持っていつてしまう。大手に良い人材を持っていかれるため、中小企業に良い人材がなかなか来れないのが現実である。そのために就職研究会みたいなものを作って、諏訪地域の企業の担当者が各大学へ行って、向こうの生徒と面談をしながらアプローチを何年も続けている。そういうことが、最近ようやく実ってきたと思っている。

教育の問題では、子どもを持っているお母さんたちの悩みを聞く場所がない。子どもを放課後児童クラブに預けている、働いているお母さんの教育に対する悩みを的確に聞いてくれる場所がない。ものすごく悩んでいるお母さんたちは多い。1年生、2年生、3年生ぐらいの子どものお母さんたちが、どのような悩みを持っているのかを聞き、相談にのる体制が欲しい。

観光のことでは、市長が言われたように諏訪市の旅館・ホテルの中で、いわゆる女将経営が残っているのは1つ2つしかない。あとは企業の傘下に入った旅館である。宿泊費を何万円も取れない状況の中で、観光客がどんどん減っているために設備投資ができない。観光客は、おもてなしはもちろんであるが、きちんとした設備のあるホテルを目当てに来る。しかし、設備投資をする余裕がないために、どんどん企業の傘下に入ってきているというのが現実だ。そういう中で、今のホテルの中で、インバウンド、特に中国の観光客を受け入れてくれるホテルがない。インバウンドではなく、国内の観光客をいかに諏訪市に引き込んでくるのかというのが重要ではないか。10年から15年ぐらい先を考えると、絶対に日本の国内からこの諏訪地域に観光客を誘客する必要があると感じている。諏訪市というところは、おもてなしのランクでは相当上のランクにいる。これにもっと磨きをかけることによって、国内の質の良い観光客を呼び込んでいけると思う。観光、雇用もそうだが、教育の問題をきちんと考えていかないといけない。

もう一つ、諏訪インター近くの諏訪ステーションパークの問題だが、周遊をして買い物をするという施設では既になくなってしまっている。あれだけの土地の広さがありながら、茅野市との関係もあるのだろうが、もっと人が集まることのできる場所、商業地域にしていかなければならない。先日、小淵沢のアウトレットに行ったら、たいへんな人出で驚いたが、あのように形を変えた諏訪ステーションパークになって欲しいと思っている。

(金子会長)

さまざまな点についてご発言ありがとうございました。そろそろまとめなくてはならない時間になったが、非常に啓示に富んだご発言をいただき、大変参考になった。市町村ごとに総合計画があるが、総花的で各部横並びの計画となってしまう。総合戦略は何か一つ牽引するテーマがあって、そこに集約されるようなストーリー性のある戦略というのが、市民も分かりやすいし、取り組みやすいのではないかと考えている。例えば、パワースポット。諏訪大社や御柱、御神渡があって、神懸りの得体の知れないパワーが時々炸裂する地域が諏訪市である。このような、パワースポットといった印象、「パワフルスポット諏訪」というような印象を持っている。そこでは輝く「しごと」が集積している。その「しごと」はどこから

生み出されるかという、諏訪圏工業メッセのようなイベントがあり、そこに子どもたちが参加していて、どうやって生きていくかという「しごと」に対して非常に意識が高い子どもたちがいる。それはまさに教育である。また、そういう人たちを支えるのに医療や介護が必要となる。あるいは、そういう人たちが集まって地域の商業やサービスがある。一つの核になるものが、全ての施策に対して関連があるような、そういう地域づくりになれば分かりやすいのではないか。諏訪大社や諏訪湖、霧ヶ峰があるような諏訪地域に、「どんな人が住んでいるんだろう」とか、「どういうところだろう」と人が集まって来る。それが国内からも海外からも集まって来る。来た人が、「ああこういう人たちがいるんだね」ということで帰ってくればそれで良い。そういうストーリー性のある計画にできたら良いとご意見を聞きながら感じた。

諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）の策定方法はまた研究したいと思うが、骨子（案）の内容についてはどうか。

（L委員）

内容については良いと思う。詳細にできているので、市長が言われたようなパワースポットみたいな「テーマ」を検討して欲しい。

諏訪湖に初島があるが、初島を活かしていないと思う。初島をもっと神懸りのなものにして人を集めていく。ただ、イベントであってはいけない。イベントは一過性のものである。初島を神懸りのなスポットにし、人が集まれるようなことを大胆かもしれないがやっていただきたい。

（金子会長）

観光に関して初島の活用も検討してみたいと思う。全市的な総合戦略、「ひと」が集まり、「ひと」が育ち、人口のことも視野に入れながらこの地域をどうやってつくっていくか。全体的な意味でのパワースポット、パワフルスポット、まだもっと良い言葉があるかと思うが、何かテーマを考えたいと思う。

（A委員）

個別の議論から始まると、最終的に積み上がったものが総花的になってしまう。サブタイトルになる戦略をまず立て、そこに優先順位をつけてやっていくことが必要だ。そういう意味では「しごと」も大事である。諏訪地域の集積を活かした技術開発は非常に大事で、私も賛成である。その時の視点として、福島県で一般社団法人 **MAKOTO** と福島銀行が、先日、「福活ファンド投資事業有限責任組合」を立ち上げた。福島県を諦めない起業家のフロンティアにするという、日本初の再チャレンジに特化した投資ファンドということだ。アメリカの投資ファンドでは、同じビジネスモデルであれば失敗経験がある方を選択するという。その理由は、失敗経験で同じ轍は踏まないということを学習しているからだという。技術開発のときに、技術は日進月歩で、すぐに陳腐化してしまうのではないかというのがあると思う。そういうときに、再挑戦のファンド、何度でもチャレンジできるという仕組みづくりが必要になる。その技術開発の成果をどこにアウトプットしていくのかというとき、一つの視点として、やはりグローバルというのがあると思う。税関もあるし、**JETRO** は海外の市場情報を集めるのに特化した拠点なので、そういうところと組んで何を開発していくのか。そういったところを利用しながら、実際に諏訪市内のある企業は、諏訪税関に切り替えたおかげで、輸入コストを **22%** 下げることができたという報告が先日あった。これらを活かしながら、シリコンバレーならぬ、「〇〇ハイランド諏訪」というようなものを目指していけるということが大事かと思う。

観光についても、インバウンドについて、ある役場のインバウンド担当の方に話を聞いたところ、欧米の方は体験を求めて来るため長期滞在する。ところが、中国、台湾、韓国の方

は、観光地に何台かの大型バスで観光スポットを見てまわるという。観光でインバウンドを狙うときに、どこをターゲットにして、そのときに何を重要視しなければならないかによって戦略が変わってくると思う。観光についても、何をターゲットに狙っていくのかを明確にしていかないと総花的になってしまう。

視点とすれば、まず「グローバル」、それから「広域連携」、それから「再挑戦」、それらのテーマが含まれる「〇〇ハイランド諏訪」というような謳い文句がサブタイトルに入ると、他とは違うものができるのではないかと感じた。

(金子会長)

もっと皆さんのお話を聞きたかったが、時間が経過してしまった。総合戦略骨子(案)の基本的な内容は了承いただいたが、今日の意見を参考にして練り直してみたい。それではこれで事務局にマイクをお返りする。

6 その他

次回以降の会議日程と内容について、事務局から説明があった。

7 閉会

(藤沢副会長)

本日はお忙しい中、活発な議論をありがとうございました。本日の意見を踏まえ、10月の有識者会議を楽しみにしている。今日はお疲れ様でした。

(河西企画部長)

それでは以上をもちまして、諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了させていただきます。どうもお疲れ様でした。

以上